

## 令和3年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

教科：技術・家庭科（家庭分野）

### Research ⇒ 現状分析・課題把握

- 1年生・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒初回の授業で三中ルールを確認し、評価の入れ方についても明確に説明をしたことで、授業への取り組みも意欲的である。家庭生活分野の発言などから流動的に変化する生活の中で問題発見をし、柔軟に解決策を考えられるようになってきている。考査では、60%の正答率である。
- 2年生・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒三中ルールが身に付き、授業意欲、態度も非常によい。「スウェーデン刺しゅう作品」の製作では、刺しゅうに興味のある生徒が多く、放課後も自主的に学習しにくる生徒が多くいた。座学では食生活分野を学習しているが、提出物などから家庭での生活力を感じられる。ただ、考査では50%弱の正答率である。
- 3年生・・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒どの生徒も昨年より、落ちついて授業に取り組めるようになってきた。幼児分野への興味が深かったため、出産や乳幼児についての発展的な内容も扱うことができた。実技実習では「幼児用座布団」を製作中だが、創意工夫がなされた作品作りがなされている。考査での正答率は70%である。

### Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)

#### 《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

- 1年生・・「ブックカバー」製作では、小学校で学習した基礎技能の定着、中学校で扱う応用技能の習得を目指す。達成できる進度予定を立てさせ、生活に必要な技能は確実に身に付けさせる。
- 2年生・・「スウェーデン刺しゅう巾着」製作は仕上げに入るため、日常使用する裁縫の基礎技能を繰り返し行い定着させる。  
食生活領域では、基礎的なことに加えコロナ禍での生活で衛生的にどのような対策が必要であるかを含めて学習させる。
- 3年生・・幼児領域では、幼児の基本的な生活習慣や社会的な生活習慣を学び、どのように育てていくかをICTを使い学習していく。  
消費生活領域では、現在の自分の生活を振り返り、1人で生活するためには何が必要かを学習する。

#### 《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

- 1年生・・製作においては基本を確実に抑えたいので、アレンジを入れさせる。  
住生活領域では、コロナなどの感染症予防対策や、災害などに備えた対策など臨機応変に行動できるよう、ICT機器を活用し、多くの解決策を考えさせる。
- 2年生・・「スウェーデン刺しゅう巾着」製作では間違えてしまったときの解決策を、自分で考えられるようにする。解決策は何通りもあるので、自分に合った解決策を導き出せるように、助言をする。  
食生活領域では、循環型社会を目指し、思考・判断をして生活していく工夫を養わせる。
- 3年生・・幼児領域では、時代と共に多様化する家族の形や、少子化問題に触れ、幼児をどのように育てていくか、基本的な生活習慣をもとに、解決策を考えさせる。  
消費生活領域では、自立した社会生活を送るための価値判断が正確にできるようにワークシートやICT機器を活用し、学習させていく。

#### 《Ⅲ『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

- 1年生・・製作においては、進度を細かく短く設定し、進度別の拡大図を掲示して自分でやるべき作業を確認し実習させ達成感を持てるようにする。進度に遅れのある生徒は、放課後を使い実習する。  
住生活領域では、変わりゆく生活の中で柔軟に対応し快適に住まう工夫をワークシートやICT機器を使用し学習して、可能ならばアクティブラーニングも行い考えを深めさせる。
- 2年生・・今まで習得した知識や技術を積極的に活用して生活を工夫したり創造したりする実践的な態度が備わるよう、技能の時間を確保する。普段生活するにあたって、身の回りのことに着目させ、より生活力が向上するようワークシートやICT機器を使い学習する。
- 3年生・・各領域で、ワークシートを使用し、復習できるように配慮する。作品作りにおいては、サンプルを複数用意し、創意工夫の参考にさせ、課題目標が達成された作品作りをさせる。